

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成23年7月14日

施設名	高知県立坂本龍馬記念館	所管課	文化・国際課
-----	-------------	-----	--------

## 1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日
施設所在地	高知市浦戸城山830番地		
事業内容	坂本龍馬を顕彰する施設として、坂本龍馬に関する資料の収集、保管、及び展示を行う。		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>&lt;建物&gt;延べ床面積:1,841.62㎡ SRC造 一部鉄骨地上2階地下2階          &lt;主要施設&gt;常設展示室、企画展示室、図書・ビデオコーナー、ミュージアムショップ、談話室など          &lt;開館時間&gt;午前9時～午後5時          &lt;休館日&gt; 12月27日～1月1日          &lt;主な料金&gt; 入館料 大人(18才以上)500円          ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料</p>		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 4人 契約職員: 11人 合計: 16人		

※職員数は平成22年4月1日現在

## 2 収支の状況

単位:千円

		平成21年度(決算)	平成22年度(決算)	平成23年度(予算)
収入	県支出金	40,988	29,778	42,104
	事業収入	104,236	173,900	67,503
	その他	5,100	9,340	35,903
	収入計	150,324	213,018	145,510
支出	事業費	20,172	59,515	50,422
	管理運営費	88,813	112,533	94,217
	(うち人件費)	(46,790)	(53,113)	(58,991)
	その他	1,121	1,470	871
	支出計	110,106	173,518	145,510

## 3 利用状況

	平成21年度(実績)	平成22年度(実績)	前年度比
①年間利用者数(単位:人)	246,994 人	442,423 人	195,429 人
	<p>&lt;利用実績&gt;            平成22年度は、年間を通じて5つの企画展を開催したほか、開館20周年記念事業に向け3年連続企画の第2弾「風になった龍馬」展Vol. 2)に関するシンポジウム、高校生洋上セミナー、「龍馬と啄木展」にちなんだ岩手県知事と高知県知事が対談する「近江屋対談」等を実施した。            利用者数は、開館20周年記念の関連事業や企画展の館の取り組みに加え、龍馬ブームの追い風を受け、開館以来最高の442,423人(前年度比較で、195,429人増加)となった。</p>		

4-1 平成22年度業務評価(指定時の県の要求水準に対する項目による)

項 目	評価	事業評価委員会意見
①指定管理期間における要求水準1 「龍馬への入口」から一歩進んだ「龍馬の中核施設」へ」	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・龍馬伝の追い風もあり、昨年一年は大きく飛躍。</li> <li>・高いレベルで成果を上げている。</li> <li>・最大限の努力をしている。</li> </ul>
龍馬と関連分野に関する調査研究を進め、その成果である専門性の裏付けのもとに、龍馬に関する新しい発見が常にできる展示を行う	B	
資料収集や他の博物館との連携や資料所有者との強調を十分図ることなどにより、「本物の資料が見たい」との声に応える	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、学芸員が関わり新たな書簡が見つかった。</li> </ul>
調査研究の成果は、展示や図録への反映のほか調査報告や研究発表などの形で行う	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞での公表の影響が大きかった。</li> </ul>
龍馬に関する専門施設として、「龍馬のことなら何でも分かる」との評価を定着させる	A	
県内外からの様々な問い合わせ、照会に対して、素早く正しく応えることのできる蓄積と体制を持つ	A	
龍馬への理解を深め、新たなファンの開拓にもつながるよう、解説員を配置しギャラリートークを充実させるとともに、来館者の疑問・質問に応える体制とする	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員の増員を図った。</li> </ul>
入館者がどこからきたか、何回目の来館か、何を目的に来たか等の入館者情報を適切な方法で収集・分析し、入館者の増加戦略やニーズへの対応に生かす	A	
カルチャーサポーターを運営のパートナーと位置づけ、実行ある人員及び体制を整える	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルチャーサポーター育成はなされているが、高校生や県民に広くPRした方が良い。</li> </ul>
龍馬に関する情報を全国に発信する	A	
広報誌を年4回以上発行し、常に内容の充実を図る	A	
魅力あるホームページを開設してアクセス数を前年度比較で順次増やし、初めての来館者の増加、リピーターの増加を目指す	A	
教育普及活動を充実し、県民、特に次世代を担う子どもたちに龍馬について正しく理解してもらう	A	
龍馬関連の講座やバスツアーなどの企画は、来館者の拡大や県立文化施設としての観点から、全県を対象として実施する	A	
学校との連携により、出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うことで子どもたちが記念館を通じて幕末維新や土佐の歴史を学び、郷土に対する誇りと愛着を育む	A	
子どもを対象とする教育普及活動は、出前授業や校外学習など合計で5,000人程度を対象に計画をもって取り組む	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの利用を一層増やしたい。そのためにも収容施設の拡大が必要である。</li> </ul>

②指定管理期間における要求水準2 「龍馬を求める人々の思いに応える」		A	・使い勝手の悪い施設の中で思いに応えている。
龍馬の生きた時代と龍馬の熱い生き様に触れ、 来館者に勇気や元気を与える記念館とする		A	
龍馬の生き方に心寄せる人々が、 人生の節目節目に訪れたいと思える 記念館とする	土佐の気風や幕末維新の息吹が 感じられる展示や解説を心がける	A	
	来館者が龍馬に宛てて手紙を書く 「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いを くみ上げる取組を継続して行い、その 結果を広報する	A	・「拝啓龍馬殿」の取組は、かなり浸透したと思う。
「龍馬像」「龍馬の見た海」「坂本龍馬記念館」と いう舞台装置を最大限生かして、記念館及び桂 浜の魅力を高める		B	・GWの渋滞解消は良かった。 ・桂浜での動線等これからの課題であり、まだ全体が 見えないためBに。
上記の要求水準以外の取組		B	
③指定管理期間における要求水準3「観光地にある 立地条件を生かし、来館者の増加に努める」		A	・増加に努めるまでもなく龍馬伝効果大 ・関係機関による大幅な拡大、拡張を検討する時期 にきている。 ・桂浜及び広く高知の核として存在感十分。
魅力ある記念館の運営 を行うことで5年を通じて 年間13万人以上の入館者 を目指す	桂浜やその他観光施設への入込者 と来館者との相関関係や、月ごと、 日ごとの入館者数など、観光客の 動向を分析し、タイムリーな企画展 を計画する	A	
	県内からの来館者の割合及び ニーズを把握し、増加のための戦 略を立てる	B	
	観光事業者や旅行代理店、行政 機関などと連携・協力して必要な 対策をとる	A	
県外から多くの観光客が 来館するという特性を生かして、 龍馬を通じた高知県のイメージ アップに貢献する	専門性のほか、高知らしさを感じ ていただく運営に努める	A	
	ホスピタリティや美観の維持の面 でのサービス水準を設定し、来館者 に心から来て良かったという高い 満足度を感じていただくため、 アンケート調査などにより、その水 準を把握する	A	
上記の要求水準以外の取組		B	・県内の来館者の多くは県外からの お客の案内で同行するのでは？

4-2 平成22年度業務評価(効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理に関する評価)

適正な管理 運営の確保	社会的責任 ・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況  建物や設備の管理 ・点検・修繕の実績 ・業務委託の状況  危機管理 ・風水害、火災、地震、盗難等 危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修	B	・教育普及の面からも施設面の拡充が必要である。 ・南海地震に備え、危機管理の徹底をお願いしたい。 ・博物館機能の充実を望む。 ・建物の使い勝手の問題で現状では改善に限界がある。
利用者サー ビスの維持 向上	サービス向上への取組 ・自己点検・評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取組	A	
利用実績	利用実績の状況 ・利用状況の分析	A	・入館者数増加、スタッフの努力に頭が下がる。 ・極限を超えた利用があった。
収支の状況	経営努力 ・収入増加の取組 ・経費削減の取組	A	・十分に努力している。
総合評価		A	・限られた条件の中で一生懸命に工夫努力している。 ・龍馬イヤーの一年、特に頑張られたと思う。 ・職員の努力、龍馬人気に見合うだけの施設拡充が求められる。博物館として塩害に負けない収蔵庫の設置。 ・過去最高、今後はないであろう実績を上げた。

【評価の目安】

- A: 仕様書(要求水準)の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書(要求水準)の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書(要求水準)の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの